

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401269		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム 笑顔の村 五番地		
所在地	札幌市手稲区富丘3条3丁目8番16号		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	平成24年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401269&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、約8年間グループホームを運営しておりました札幌市手稲区曙から、平成23年8月に新築し、移転致しました。当ホームのリビングは利用者の皆様とスタッフのコミュニケーションの場となっており、家庭的な雰囲気笑顔が溢れています。町内会の行事には積極的に参加させていただき、天気の良い日には、近くの公園で手作りのお弁当を食べたり、ホーム前の駐車場で焼肉パーティーをしたり、利用者の皆様楽しんでいただける様に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは平成23年8月に新築し、利用者も定員の9名となり一段と賑やかさを増しています。転居前の愉快的利用者仲間が、そっくり入居されていることで、お互いを労わり合う、温かな交流を見ることが出来ます。職員も経験豊かなスキルを遺憾なく発揮でき、安心の職場環境となっています。新しい地域の中で、住民の方々の温かな支援と協力を得ながら、地域に溶け込んだホーム作りが着実に進められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検しううえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意識を全職員で確認し、安定した暮らしや地域生活の継続を支える為の柔軟な支援を理念とし、毎日の申し送りやミーティング等で確認し、目標を定めたケアに取り組んでいる。	職員は、「笑顔の村五番地」が目指すサービスのあり方を示す運営理念の内容を十分理解して、共有し、日々の実践へと繋げています。理念の文言が多少長すぎる嫌いもありますが、今後、職員間で協議することとしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の学校行事や町内会の行事等に積極的に参加し、地域の方々との交流を行っている。	現在地に移転してから半年にも満たない中で、町内会の理解を得て、少しずつ交流の輪が広がっています。近くの小学校の学習発表会に招かれ利用者が出席しています。ホームでは町内向けの広報誌作りも予定され、今後の繋がりが期待されます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者等の介護相談等に役立てるよう取り組み、地域包括支援センターや手稲区管理者会議等で情報交換を行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での検討事項や懸案事項についての経過報告や外部評価の結果を報告し、サービスの向上を図っている。	町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者の出席を得ながら、活発な意見交換が議事録から覗えます。ホームの現況などの報告に十分とは言えない点もありますが、家族への出席要請や議事録の配布など、細やかな配慮が行われています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区で行われる会議等で情報交換を行っており、市町村担当者との関係作りを積極的に行い、考え方や情報を共有している。	市や区で行われる会議などに出席し、ホームの実情報告の機会としていますが、今後は外部評価の結果を中心とした「目標達成計画」を示しながら、ケアサービスのあり方、向上を積極的に図れるよう、協力関係の構築を目指しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は、ミーティング等で身体拘束防止マニュアルを基に話し合い、十分に理解を図り、ケアに取り組んでいる。	移転後、間もないことから地区内の防犯事情を考慮して、夜間に加え、昼間の玄関施錠が行われています。代表者及び管理者は、施錠が利用者への影響を十分熟知しており、今後は玄関の開錠を行い、身体拘束のないケアに取り組むこととしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員は、ミーティング等で事業所独自のマニュアルを基に話し合い、虐待防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で地域包括支援センターの職員から説明を受けたものをミーティング等で全職員に説明し、理解を深め、活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項を丁寧に分かりやすく納得して頂けるように説明し、利用者やご家族に不安が生じないよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時等に何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。玄関に感想箱を設置したり、意見、要望等が出た場合は、全職員がミーティング等で話し合い、運営に反映させている。	管理者及び職員は、家族などからの意見や要望を聴取するため、会報に加え利用者一人ひとりの情報を「お便り」として送付し、訪問時や電話の際のコミュニケーションを図っています。これら意見等はミーティングなどで話し合い、改善に結び付けていますが、メモを取る習慣の不足や、どのように反映したかの結果が不明確です。	家族などから得た意見、情報、要望は、些細な内容でも、メモなどに記録する習慣が望まれます。些細な事項でも運営にとって重要な事項が含まれている場合があります。また、「意見箱」は玄関ロビーに設置していますが、活用へのPRが不足であり、ネーミングの工夫など、家族が気楽に意見や要望を寄せられる取り組みを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、日頃からコミュニケーションを図り、職員の意見を聞く機会を作っている。	代表者と管理者は、職員が自由に意見やアイデアを出し合う雰囲気を大切にするなど、風通しの良い職場環境作りを実践しています。利用者の喫煙を支援するためのアイデアが、職員からの提案をもとに運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日常的にホームに来て、職員に声を掛け、職員の努力や勤務状況を把握しており、時給を上げたり、役職を就け、手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や民間で行われている研修会に参加しており、ミーティング等で全体に報告している。また、毎月行っているミーティングの際にも事業所独自のマニュアルを基に内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区で行われる連絡会では、悩みや緊急時の対応について意見交換や事例検討が行われ、ケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と計画作成担当者が面談を行い、全職員が入所前の利用者の生活状況を把握できるようミーティングを行い、ご本人の不安を軽減し、早くに信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前には、管理者と計画作成担当者がご家族と十分な話し合いを持ち、気軽に相談出来る環境作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いや状況を確認し、改善に向けた支援を行っている。また、他のサービス事業者と連携を取り対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが協働しながら、その人らしく和やかな生活ができるよう支援している。調理の仕方を教えて頂いたり、暮らしの知恵を教えて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの家族関係を大切にしながら、ご家族が来訪された際は、職員が気軽に間に入れる雰囲気を作ったり、毎月の通信等で行事予定を記載し、ご家族を誘ったりしながら交流を持ち、よりよい関係の継続に取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人や友人等がいつでも訪問出来るよう努めている。また、利用者の要望で電話をかける支援も行っている。	移転後も、利用者や家族の知人が訪れるなど、これまで慣れ親しんだ訪問者を歓迎しています。墓参りなどは家族と連れ立って出かけており、職員は温かく支援しています。これからは地域のボランティアなどの協力を得ながら、馴染みの関係作りの拡大を図りたいと考えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を把握し、利用者同士がよりよく関わり合えるよう、全職員が調整役となって支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、利用者やご家族による相談事があれば、気軽に相談できるように関係作りに取り組んでいる。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々の関わりの中で、一人ひとりの希望や思いを言葉や表情等から汲み取り、把握に努めている。	管理者と職員は、日々の支援を行いながら些細な表情や言葉から、利用者の思いや意向を把握し、情報を共有しながら、サービスの向上に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴や馴染みの暮らし等を聞き取り、全職員が把握に取り組んでいる。また、現在の生活に反映出来る様に取り組んでいる。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送り、連絡ノート等で職員全員がご本人の心身状態、有する力等を把握するよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員や計画作成担当者は、思いや意見を十分に聞き、職員全体でアセスメント、カンファレンス、モニタリングを行い、3ヶ月毎に作成している。	利用者の体調の把握と維持を図るため、日常の介護記録がしっかりと介護計画に反映されています。3ヶ月毎に見直しも行われ、職員間のミーティングでの内容も反映されています。これからは家族との話し合いの時間に余裕を持たせるなど、意見やアイデアをより反映するよう検討しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態、体調の変化や会話を個々の事業所独自の介護記録や連絡ノートに記載し、申し送り等で職員間の情報共有を徹底し、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関と連携し、訪問診療や緊急時の往診、また、ご本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎等、個別に柔軟に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域の暮らしを続けられるよう、運営推進会議を通して、意見交換をする機会を設けている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関において、月に2回の訪問診療の他にも、利用者の体調の変化や不安、相談等、健康管理全般について、ご本人やご家族の希望に応じて対応している。	かかりつけ医への受診は家族が同伴しますが、家族の都合などにより、職員が受診の支援をする場合があります。協力医療機関の月2回の訪問診療もあり、利用者の健康管理面で家族の信頼を得ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護職員と気軽に電話連絡が出来る体制を整えており、相談しながら利用者の健康管理や医療的な支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関、協力医療機関、ご家族との連絡を取り合い、退院前には医療機関に連絡をし、退院後の指示を得ている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応指針を定め、ご本人やご家族の安心と納得が得られるよう、協力医療機関と連携し、繰り返し話し合いをし、チームとしての支援体制が整っている。	ホームとして、終末期に向けた方針はありますが、未だ家族との話し合いには至っていません。現在、重度化や終末期に向けた対応について「家族へのアンケート」を実施し、理解を得た上で、一人ひとりに説明をする計画があります。	入居から年月を経ており、これらアンケートによる事前の意向調査は、家族への理解と安心に結びつくものと思われまますので、早期にアンケートの実施と家族への説明の取り組みを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について、マニュアルを整備をしており、ミーティング等で研修している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災係が中心となり日常の点検を行っている。また、年2回避難訓練を実施し、消防署から避難方法等の指示を得ており、全職員で見直し、確認している。	移転前を含めて年2回の避難訓練が実施されています。地域住民の方々の参加数も増えるなど、地域と一体となった防災避難訓練が行われています。今後は、住民の方々の協力を前提としたマニュアルを作成し、さらに充実を図ることとしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の関わりの中で、誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応をしている。	管理者及び職員は、日常の暮らしの継続が円滑に行われるよう、利用者の人格の尊重を常としながら、特に言葉かけやトイレ誘導には、プライバシーへの細心の配慮を心がけて支援が行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて職員が声を掛け、分かる力に合わせた説明を行い、自分で決められるような場面作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が利用者のペースに沿って希望や思いを受け入れ、ご本人の気持ちを尊重しながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの個性を活かせるよう支援し、不十分なところや乱れをさりげなく直す等の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれに食べたい物を聞き、食事のメニューに取り入れている。また、食器拭きやテーブル拭きを日課とされている利用者もいる。	食卓での利用者の笑顔と楽しい会話が飛び交います。利用者同士で気遣い、労わる場面が見られ、職員も利用者の自立した食事をそれとなく支援しています。献立は、食材会社の栄養士の管理の下、作成されていますが、調理は利用者も加わって行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェック表に記録しており、全職員が把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っていただき、口腔の状態を観察している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握しており、出来る限りトイレでの排泄を支援している。また、夜間オムツ使用の利用者も日中はトイレ誘導を支援している。	職員は利用者の習慣や排泄パターンを把握し、夜間はオムツ使用の利用者もありますが、昼間はできるだけオムツに頼らないで、パットやリハビリパンツの使用により、トイレでの自立排泄の支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の日課でラジオ体操や棒体操等を行っており、階段昇降運動や散歩等で身体を動かす機会を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望の時間や好みの温度で楽しんで頂いている。また、入浴以外に清拭や足浴、手浴、マッサージ等を行っている。	入浴日などは、予め特に決めずに利用者の希望に沿った入浴支援が行われています。以前には、夜間入浴を希望した例もありますが、現在では昼間の入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調や顔の表情に気を配りながら、リビングソファや自室等でゆっくり休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの内服薬がわかる様にファイルしており、職員全体で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として食器拭きやテーブル拭きを日課とされている利用者がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の気分や希望に応じて、日常的に散歩をしたり、外出行事を決める前には、利用者の希望を取り入れ、戸外に出掛けられるよう支援している。	閉じこもりを防止するため、夏場の天候状況により、散歩など、外出を行うようにしています。新築されたホームでは上り坂がきつく、遠回りをした散歩コースを設定して、利用者の運動不足に対応しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事として買い物ツアーを行い、欲しい物を購入する場合は、ご自分で支払いが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機を使用し居室等でかけていただいている。また、耳が遠い利用者の方については、職員が間に入っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には、利用者が作ったカレンダーや絵が貼ってあり、楽しみながら居心地良く過ごすよう工夫している。	居間のガラス越しには、国道を挟んだ温泉や商店街の看板、街路灯などが一望でき、特に夜景の素晴らしさは利用者の自慢の一つです。居間や食堂に面したトイレは若干の違和感を覚えますが、職員の気くばりで解消しています。採光や温度、また冬季間に向けての湿度管理など、居心地良い共用空間作りの配慮が行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビやビデオをみながらおやつを召し上がったり、気の合う利用者と談笑されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、利用者の使い慣れた家具等を使用していただいたり、思い出の写真を飾り、安心して過ごせるよう配慮している。	移転により利用者の居室は、当初、慣れることに時間が掛かった利用者もいましたが、現在では、仲の良い利用者同士の居室訪問が相互に行われています。居室には、慣れ親しんだベットや家具、椅子などが持ち込まれ、安心の暮らしが継続される空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住宅改修型からバリアフリーのホームを新築し、利用者の身体能力等を設計に活かし、安全で自立した生活が送れる様な環境を作っている。		